

検索ボックス

検索

[<< 良性発作性頭位めまい症・BPPV | TOP | 心不全治療薬の三種の新薬 >>](#)

2021年11月06日

<< 2025年12月 >>

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

最近の記事

[\(12/03\)前立腺がんのモニタリングに MRI 単独は信頼できるか？](#)
[\(12/01\)マイコプラズマ感染症にミノマイシン服用の是非](#)
[\(11/29\)心房細動アブレーション後の積極的ライフスタイル管理](#)
[\(11/27\)糖尿病治療薬SGLT2阻害薬の尿路感染症後の中断](#)
[\(11/25\)慢性咳嗽・UCCにリフノアの効果は？](#)

最近のコメント

[鉄欠乏性貧血における鉄剤の服用 by \(09/13\)](#)
[23価肺炎球菌ワクチンの局所反応 by \(07/11\)](#)
[急性心不全のラシックスの効果減弱 by \(06/10\)](#)
[小児の腸重積・ロタウイルスワクチンとの関係について by \(05/02\)](#)
[II型糖尿病患者にスルホニル尿素薬の有効性について by \(04/19\)](#)

タグクラウド

カテゴリ

[小児科\(282\)](#)
[循環器\(346\)](#)
[消化器・PPI\(199\)](#)
[感染症・衛生\(339\)](#)
[糖尿病\(172\)](#)
[喘息・呼吸器・アレルギー\(141\)](#)
[インフルエンザ\(124\)](#)
[肝臓・肝炎\(68\)](#)
[薬・抗生剤・サプリメント・栄養指導\(59\)](#)
[脳・神経・精神・睡眠障害\(82\)](#)
[整形外科・痛風・高尿酸血症\(48\)](#)
[ワクチン\(103\)](#)
[癌関係\(20\)](#)
[脂質異常\(32\)](#)
[甲状腺・内分泌\(22\)](#)
[婦人科\(24\)](#)
[泌尿器・腎臓・前立腺\(69\)](#)
[熱中症\(7\)](#)
[日記\(37\)](#)
[その他\(112\)](#)

過去ログ

[2025年12月\(2\)](#)
[2025年11月\(14\)](#)
[2025年10月\(12\)](#)
[2025年09月\(15\)](#)
[2025年08月\(13\)](#)
[2025年07月\(14\)](#)

IgG4関連疾患について

IgG4関連疾患について

<勉強会用>

本院では肺炎の原因としてはアルコールと胆石が殆どですが、稀な疾患の鑑別としてIgG4関連の肺炎もあります。最近では他の部位のIgG4関連も逆紹介され、来院されています。本疾患を外来で正確に患者さんに説明する時間もないため、本ブログにて簡略に紹介します。主にuptodateを参照しました。

1) 免疫グロブリンを産生する形質細胞が色々な臓器に浸潤し、IgG4という免疫グロブリンを作り、更に臓器に線維化を生じます。ある段階になると、その変化は非可逆的になってしまいます。治療としてステロイドが有効な所以です。しかしステロイドを中止すると、病変はまた進行性になります。IgG4がどのような機序で疾患に関わるかは明白ではないようです。

次に侵される臓器を列挙しますと

- 2) 日本で最初に注目されたのは膵臓です。本院でも肺炎を最初に診断しています。原因が不明な場合は、IgG4関連をまず疑う必要があります。
- 3) 胆道系疾患として硬化性胆管炎があります。原発性硬化性胆管炎との鑑別は重要ですが、複合的に検査をしなくてはなりません。(つまり困難)
- 4) 膵癌、胆管癌もIgG4が高値となり類似した臨床症状から鑑別診断が重要となります。
- 5) 後腹膜線維症はCT所見から鑑別が可能ですが、生検が決め手となります。
- 6) 大動脈炎を起こすことがありますが、一般的に発熱はない。高安病、ベチエット病との鑑別が大事
- 7) 耳下腺、顎下腺、涙腺の腫大
シェーグレン症候群との鑑別が大事だが、シェーグレン症候群の中にはIgG4が高値の場合があり、シェーグレン症候群と診断された中にIgG4関連が紛れ込んでいる可能性もある。
- 8) 眼窩炎性疾患
眼窩偽腫瘍の25～50%がIgG4関連との報告もある。
- 9) 肺疾患
色々な肺病変のパターンを呈するために、サルコイドーシス、腫瘍、間質性肺疾患と類似の所見であり、鑑別を要する。
- 10) 甲状腺
リーデル甲状腺炎に類似するが、IgG4関連では周辺に炎症は波及しない。リーデル甲状腺炎そのものが、IgG4関連疾患とする説もあります。
- 11) 間質性腎炎
急性、慢性の腎障害、肉芽腫性炎症、好中球浸潤など多彩である。
- 12) ANCA関連血管炎に類似の所見を呈する。

私見)

IgG4関連疾患の患者さんが、上記の全てを合併するわけではありません。次々と全身に病変が進行するといった心配もありません。

次の4つのタイプがあります。
・脾－肝－胆道系
・後腹膜線維症または血管炎
・頭部や頸部に限局した病変
・全身症状を有するミクリッツ病

しかしIgG4関連疾患には次の注意点があります。
・診断の要のIgG4は135以上としていますが、症例によってはそれ以下の場合もあり、逆にIgG4関連疾患でない疾患でも陽性の事があります。
・最終診断は生検(病理診断)ですが決め手になる所見はなく、類似疾患も存在します。
・IgG4関連疾患は、膠原病と同じようにまず疾患を疑い、鑑別をし、ルーラアウトし、経過観察をして診断に漕ぎつけるといった根気強い地道な努力が必要となります。

[2025年06月](#)(13)
[2025年05月](#)(15)
[2025年04月](#)(17)
[2025年03月](#)(13)
[2025年02月](#)(14)
[2025年01月](#)(16)
[2024年12月](#)(14)
[2024年11月](#)(12)
[2024年10月](#)(13)
[2024年09月](#)(14)
[2024年08月](#)(12)
[2024年07月](#)(15)
[2024年06月](#)(14)
[2024年05月](#)(14)
[2024年04月](#)(12)
[2024年03月](#)(14)
[2024年02月](#)(13)
[2024年01月](#)(19)
[2023年12月](#)(17)
[2023年11月](#)(13)
[2023年10月](#)(15)
[2023年09月](#)(12)
[2023年08月](#)(16)
[2023年07月](#)(15)
[2023年06月](#)(14)
[2023年05月](#)(15)
[2023年04月](#)(15)
[2023年03月](#)(15)
[2023年02月](#)(14)
[2023年01月](#)(15)
[2022年12月](#)(12)
[2022年11月](#)(16)
[2022年10月](#)(15)
[2022年09月](#)(13)
[2022年08月](#)(17)
[2022年07月](#)(13)
[2022年06月](#)(15)
[2022年05月](#)(15)
[2022年04月](#)(14)
[2022年03月](#)(15)
[2022年02月](#)(14)
[2022年01月](#)(16)
[2021年12月](#)(14)
[2021年11月](#)(17)

以降はカテゴリーで検索してください。

[RDF Site Summary](#)
[RSS 2.0](#)

開業医として十分に専門医との連絡が必要となるのは言うまでもありません。
なお、「日進月歩」に要略されていますので下記に掲載します。
その他、関連文献も掲載します。

1 [IgG4関連疾患 日進月歩.pdf](#)

2 [シェーグレン症候群 IgG4.pdf](#)

3 [I g G 4 関連動脈周囲炎.pdf](#)

4 [側水腎症を呈した I g G 4 関連疾患の1例.pdf](#)

5 [木村病 図.pdf](#)

0

0

いいね!

ポスト

ブックマーク

【消化器・P P I の最新記事】

[医療ネットより](#)

[過敏性腸症候群に対する薬物療法の安全性](#)

[脂肪肝・代謝異常関連脂肪性肝疾患 NEJ..](#)

[大腸内視鏡の前処置における3日間リンゼス..](#)

[新規発症および増悪する糖尿病の膵癌スクリ..](#)

posted by 齋賀一 at 16:27 | [Comment\(0\)](#) | [消化器・P P I](#)

この記事へのコメント

